

Oral (Theme) | 生涯スポーツ研究部会：【課題A】ライフステージに応じた「スポーツの価値」とは？

📅 Thu. Aug 28, 2025 9:20 AM - 10:00 AM JST | Thu. Aug 28, 2025 12:20 AM - 1:00 AM UTC 📍
Room3201(Education and research building block3 2F 3201)

[2a1101-02] 生涯スポーツ研究部会【課題A】口頭発表④

Chair:Nobuhiko Akazawa

9:20 AM - 9:40 AM JST | 12:20 AM - 12:40 AM UTC

[生涯スポーツ-A-10]

学外スポーツ活動が小学生の学内身体活動レベルに与える影響（教）

心理社会的因子との関連性に着目して

*TIANCONG ZHENG¹ (1. WASEDA University Graduate School of Sport Sciences)

9:40 AM - 10:00 AM JST | 12:40 AM - 1:00 AM UTC

[生涯スポーツ-A-11]

運動部活動の期待と機能が及ぼす継続への困難感（経）

中高生の抵抗条件の認識と運動者行動論からの問題提起

*KOUKI TSUNEURA^{1,2}, YOSUKE TAHARA³ (1. Kurashiki Sakuyo University, 2. Hiroshima University, Graduate School, 3. Aoyama Gakuin University)

Oral (Theme) | 生涯スポーツ研究部会：【課題A】ライフステージに応じた「スポーツの価値」とは？

🌱 Thu. Aug 28, 2025 9:20 AM - 10:00 AM JST | Thu. Aug 28, 2025 12:20 AM - 1:00 AM UTC 🏠
Room3201(Education and research building block3 2F 3201)

[2a1101-02] 生涯スポーツ研究部会【課題A】口頭発表④

Chair:Nobuhiko Akazawa

9:20 AM - 9:40 AM JST | 12:20 AM - 12:40 AM UTC

[生涯スポーツ-A-10] 学外スポーツ活動が小学生の学内身体活動レベルに与える影響（教）

心理社会的因子との関連性に着目して

*TIANCONG ZHENG¹ (1. WASEDA University Graduate School of Sport Sciences)

本研究は、中国における児童の身体活動の量および強度の不足という現状を改善するために、既存の資源と条件を活用しつつ、児童の学習に影響を与えないことを前提として、児童の身体活動への意欲と活動強度を有効的に向上させる方法を究明することを目的とする。近年、中国でスポーツ塾とスポーツイベントなど、児童向けのスポーツ産業が急速に発展している。学外スポーツ活動は有料で提供されるため、学習指導要領や学校施設の制約を受けず、より優れた指導者の支援を得ることが可能であり、児童により良いスポーツ体験を提供することができる。そこで本研究では、学外スポーツ活動の参加有無が、学内における身体活動（PA）レベル、および心理社会的因子に及ぼす影響を明らかにする。具体的には、中国の小学校5年生280名を対象に、学外スポーツ活動への参加が学内身体活動（PA）レベルおよび心理社会的要因（態度、ソーシャルサポート、自己効力感、メリットと障害）に与える影響をアンケート調査によって検討する。学外スポーツ活動への参加の有無に応じた児童の身体活動レベルの比較により、当該活動が児童の身体活動レベル向上に有効かどうかを検証する。また、心理社会的因子との関連性分析を通じて、各グループにおける児童の身体活動に影響を与える関連因子を明らかにする。本研究の成果によって、身体活動レベルと強く関連する心理社会的因子を体育教育現場で積極的に取り入れることで、児童がより主体的に身体活動に取り組むための基盤を整えられることが可能と考えられる。今後の学校体育教育において、重要な示唆を与えられよう。

Oral (Theme) | 生涯スポーツ研究部会：【課題A】ライフステージに応じた「スポーツの価値」とは？

📅 Thu. Aug 28, 2025 9:20 AM - 10:00 AM JST | Thu. Aug 28, 2025 12:20 AM - 1:00 AM UTC 🏠
Room3201(Education and research building block3 2F 3201)

[2a1101-02] 生涯スポーツ研究部会【課題A】口頭発表④

Chair:Nobuhiko Akazawa

9:40 AM - 10:00 AM JST | 12:40 AM - 1:00 AM UTC

[生涯スポーツ-A-11] 運動部活動の期待と機能が及ぼす継続への困難感（経）
中高生の抵抗条件の認識と運動者行動論からの問題提起

*KOUKI TSUNEURA^{1,2}, YOSUKE TAHARA³ (1. Kurashiki Sakuyo University, 2. Hiroshima University, Graduate School, 3. Aoyama Gakuin University)

中高生の運動部活動からの逃避行動は、部活動の地域展開という変革期において、その成否を左右する重要な課題である。単に活動の場を地域へ移行するだけでは、生徒のスポーツからの離脱を防げない可能性があり、活動継続を困難にする要因の理解が不可欠である。本研究は、この課題に対し生活者の主観的意味に着目した運動者行動論（常浦・高岡, 2016）の視座から、生徒が捉える抵抗条件の認識パターンを類型化し、それが逃避行動としての離脱にどう関連するかを検討する。

調査はT県の中高生運動部所属生徒を対象とした。退部予測関連の項目を用いた探索的因子分析の結果、6つの抵抗条件を抽出した。これらに基づくクラスター分析により、生徒は、低抵抗・比較的適応型と多重抵抗・葛藤型に分類された。次に、退部経験の有無との関連をロジスティック回帰分析で検討した。その結果、希望する部活動への入部の有無と部の機能不全と刺激不足を独立変数としたモデルが有意であった。希望部活動に入部した生徒は中学時代の退部経験が有意に少なく、部の機能不全と刺激不足の認識が高い生徒は退部経験がある傾向が見られた。

以上から、生徒が捉える抵抗条件にはパターンが見出され、これらのパターンを特徴づける個別の抵抗条件が過去の逃避行動と関連する可能性が示唆された。さらに、これらの抵抗条件は、生徒自身の価値観や期待と、部活動運営実態や学校・家庭環境との間の不協和が個人の主観的意味でネガティブに意味づけられた結果と考えられる。このことは、部活動の地域展開において、現状の学校部活動において、生徒の逃避行動に繋がり得る要因を理解し、それを繰り返さない新たなアプローチが求められることを示唆する。具体的には、生徒の主観的意味によって形成される複合的な抵抗条件を踏まえ、個々の生活者に寄り添うスポーツサービスの設計が継続への困難感を軽減し、肯定的な関与を促す上で重要である。